

1 基本情報					
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要				
都立動物園グループ	（指定管理者名）公益財団法人東京動物園協会 （団体の概要）昭和23年設立。動物園及び水族園事業の発展振興をはかり、併せて動物とその生息環境について知識を広め、人と動物の共存に貢献する。				
指定期間					
上野・多摩・井の頭 H28.4.1～R8.3.31（10年間）					
葛西 R5.4.1～R8.3.31（3年間）					
2 施設名					
恩賜上野動物園 多摩動物公園 井の頭自然文化園 葛西臨海水族園					
3 管理運営の概要					
当協会は、以下の基本方針と主な取組に基づき、都立動物園・水族園の管理運営を適切かつ円滑に行った。					
1 基本方針					
■「動物園及び水族園事業の発展振興」、「人と動物の共存への貢献」という協会の使命の下、「展示の工夫等による、楽しみながら学べる動物園・水族園の実現」、「国内外の動物園や研究機関との協力による、野生生物の保全への貢献」、「公益性と経営感覚をあわせ持った施設運営」の3つの基本方針の実現に向け、4園及び総務部が一体となり、都立動物園・水族園の着実な管理運営を実施する。					
■事業運営にあたっては、第2次都立動物園マスタープランに基づき、動物園・水族館の持つ「レクリエーション」「教育・環境教育」「種の保存」「調査・研究」の4つの機能を強化する。					
また、地球温暖化による気候変動が生物多様性に対する重大な脅威となっていることを踏まえ、令和4年度に策定した「地球環境保全行動戦略」に基づき、生物多様性を守り、かけがえのない地球環境を次世代に継承する取組を事業全般にわたり進める。さらに、絶滅の危機にある野生生物の保全活動を一層推進するため、「野生生物保全センター」の機能を強化し、保全の取組を加速させる。					
■新型コロナウイルスへの対応にあたっては、お客様に安心して来園していただけるよう感染防止対策の徹底を継続するとともに、デジタル技術も活用しながら多様なニーズにきめ細かく対応し、利用者サービスの向上を図っていく。					
2 主な取組					
・野生生物本来の生態や魅力を引き出す「動物の飼育・展示」					
・「第2次ブーストック計画」の対象種など希少種を中心とした「野生生物の保全」					
・多様なプログラムや情報発信を通じて動物や環境についての学びを提供する「教育普及」					
・魅力的な商品やホスピタリティあふれるサービスを提供する「利用者サービス」					
・万全な施設管理や危機管理対策など「安全・安心の確保」					
4 管理状況（維持管理）					
動物園・水族園の運営を適正に維持継続するため、施設の維持管理を適切に行った。					
(1) 施設の点検と保全：日常の施設点検等に基づく計画的な補修や緊急的な対応等により、各園を適正に運営することができた。					
(2) 園内植物の維持管理と活用：ボランティアと協働して園内植物の維持に取り組んだほか、園内の巨木等をめぐるガイドツアーや在来山野草の保護を継続発展させる取組を来園者に解説する等、園内植物を教育普及活動の資源としても積極的に活用した。基本的な樹林地管理にとどまることなく、園の魅力アップに努めた。					
(3) 自然災害への対応：「気象災害対策計画」を定め、緊急時の連絡・待機態勢を整えた。					
(4) 省エネ化への対応：空調設備更新時に省エネルギー性能の高い機器を選定するなど、機械設備を省エネ性能に配慮して更新した。					
(5) 施設補修：園路やデッキの補修、設備の更新等を通じてアクセシビリティや利便性を向上させた。					
(6) 東京都工事への対応：都の大型工事による飼育環境の変化に応じた施設補修を行う等、事業が円滑に進むよう調整・協力するとともに、飼育環境の維持に務めた。					
(7) 動物舎等の維持補修：老朽化した施設を予防保全の見地から計画的に補修することで、効率的かつ効果的な維持管理を行った。					
5 利用者アンケート結果					
実施方法：来園者にQRコードを提示しWEBアンケートサイトで回答していただく。※4段階評価					
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の応対
恩賜上野動物園	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5
多摩動物公園	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6
井の頭自然文化園	3.6	3.8	3.6	3.7	3.7
葛西臨海水族園	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7
6 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
恩賜上野動物園	3,264,275	双子のパンダやスマトラトラの子など魅力的な展示を実現し、前年度比増（+6.8％）となった。			
多摩動物公園	802,224	酷暑の影響を受けたが、サマーナイトなど特色あるイベントを通して前年度比増（+2.6％）を達成した			
井の頭自然文化園	702,922	夜間開園で園の魅力を発信するなど利用を促進し、80周年記念イヤーだった前年度と同程度となった。			
葛西臨海水族園	1,260,218	団体入園やインバウンドの需要を取り込み年間を通して堅調に推移し、前年度比増（+4.0％）となった			
合 計	6,029,639				



目指す姿



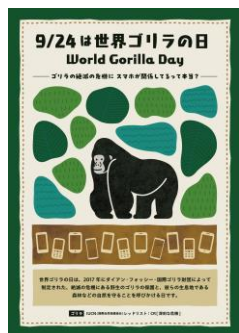
様々な動物の魅力的な展示を通して、野生生物保全の重要性を国内外へ発信する動物園

- ◎ 野生動物に関する多様な情報発信の拠点
- ◎ 動物の多様な魅力を伝える展示の改善
- ◎ 誰もが利用しやすい観覧環境の充実

野生動物保全(普及啓発)

国内各地の飼育園と連携した普及啓発企画「世界ゴリラの日」

- 9月の世界ゴリラの日において、ゴリラの飼育係が野生のゴリラの減少理由の一つである「レアメタル」採掘の問題を解説した。
- 昨年度は上野動物園単独で企画・実行していたが、今年度はゴリラを飼育している国内の園に声をかけ、6園全てで共通のグラフィックを用いて同趣旨のトークイベントを開催するとともに、SNSを活用した情報発信、使用済スマートフォンの回収(6園中4園)を行い、**他園を巻き込んだ一回り大きな教育普及イベントに発展**させた。
- SNSで目標を上回る多くの人の目に留まったほか、NHK首都圏ニュース等にも取り上げられ、**動物園の取組を広く発信**できた。



ポスターグラフィック



国内飼育園全てで開催



トークイベントの様子

目標/成果

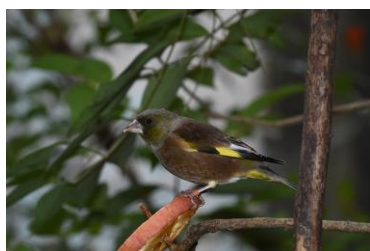
- 目標① X(旧Twitter)インプレッション数15万件 ⇒ **実績:18.3万件 対目標値3.3万件増**
- 目標② マスコミからの取材 3件 ⇒ **全4件 目標達成**

野生動物保全(繁殖)

「飼育展示計画」における重点的取組で希少種の保全に貢献する2つの顕著な成果

- 第2次都立動物園マスタープランに基づき策定した「飼育展示計画」における重点的取組で2つの顕著な成果を出した。
- 第一に、オガサワラカワラヒワの生息域外保全を視野に入れた「近縁種飼育による飼育技術確立」という目標に沿って、**カワラヒワの繁殖に成功**した。
- 第二に、4月にスマトラトラが**26年ぶりに繁殖し、展示に至った**。12月には令和5年度2回目の繁殖に成功し、4月の繁殖では人工哺育となったが、12月の繁殖では人工哺育に切り替えることなく順調に成育した。

成果1 小笠原の希少鳥の近縁種カワラヒワ繁殖に成功!



上野動物園で飼育するカワラヒワ

オガサワラカワラヒワは日本全体で見ても絶滅のリスクが高い鳥のひとつと言われており、その保全のために緊急的な対策が求められている。上野動物園では近縁種飼育により飼育技術を確立することで保全に貢献している。

成果2

26年ぶりにスマトラトラ誕生!



スマトラトラの子

令和5年1月に繁殖のため同居させたとこ交尾が見られ、令和5年4月28日に出産した。上野動物園におけるスマトラトラの子どもの誕生は、1997年以来26年ぶりだった。

快適な園内環境づくり

利用ニーズに対する柔軟な対応 「ひんやりZOOスポット」の発信

- 記録的な猛暑の中、来園されるお客様に少しでも快適にお過ごしいただき、さらに熱中症予防にも役立てていただくため、園内でひと涼みできる場所を「ひんやりZOOスポット」として発信し質の高いサービスの提供に努めた。



【公式ホームページにリーフレットのPDFを掲載】



【弁天門入り口の看板】



【ミストでひんやり】

関係機関との連携・都の要請への協力

上野恩賜公園開園150周年総合文化祭出展

- 上野恩賜公園開園150周年総合文化祭では、園長らがパネルディスカッションやトークイベントなどのステージ企画に出演したほか、都立動物園・水族園のブースを出展し、文化祭用に新たに制作したハンズオン展示(さわれる展示)や「飼育係になってみよう(飼育作業着の着用体験)」など、子どもから大人まで楽しく学べて体験できる動物園らしい企画を多数展開した。
- ブースには4日間で約3,000名が来場した。様々な企画を通じ、上野動物園の歴史や自然の魅力を伝えるとともに、幅広い世代の方に都立動物園・水族園のコンテンツを楽しんでいただく機会を提供し、都立動物園として150周年事業の盛り上げに貢献した。



アバターロボット操作体験



動物解説ハンズオン教材



飼育係になってみよう

動物園の魅力向上

園内植物の適切な維持管理と資源としての活用

- 園内植物を適切に維持管理しただけでなく、植物にまつわるガイドツアーを実施し教育普及のための資源として活用した。公園制定150周年記念イベントとして「巨樹・巨木ツアー」を10月までに7回、「サクラツアー」を3月に2回開催し、計195名が参加した。
- 園内の植物や緑を資源として最大限活用するとともに、樹木や植物の紹介に留まらず緑の維持管理の意義や、竹垣づくりなどの造園技術について沢山の来園者へ発信することができ、回答者187名の全員から「満足」との評価を得ることができた。



巨木ツアーの様子

<参考>

巨樹・巨木ツアーアンケート結果
大変満足83%、概ね満足17%

自由意見では、「動物園の緑の魅力が伝わり、動物園に来る楽しみが新たに増えた」「樹木管理の仕事の内容や苦労話などが興味深かった」等の意見が多く寄せられた。

多摩動物公園 Tama Zoological Park

目指す姿



多摩丘陵の自然を活用し、ダイナミックな展示と野生動物の繁殖を推進する動物園

- ◎ 豊かな自然を活かした生息環境の再現
- ◎ 野生動物の繁殖基地としての機能充実
- ◎ 野生生物保全センターでの保全の推進

希少な野生生物の保全

第2次ブーストック種と保全対象種 計11種の繁殖に成功

- ブリーディングローン等で他園と連携し、日本国内において多摩のみで繁殖しているナベコウなど、**第2次ブーストック種と保全対象種 計11種**の繁殖に成功した。
- アメリカから輸入したチーター3頭の展示を開始し、飼育個体の発情状況を知るため大学と共同で観察とホルモン調査を行ったほか、よこはま動物園との間でのコウノトリ交換、平川動物公園へオランウータンを移動するなど、**国内外の他施設等と連携し遺伝的多様性に配慮した繁殖を推進した。**

繁殖した主なブーストック種



ナベコウ(巣立ち間近のひな)



トキ



コウノトリ

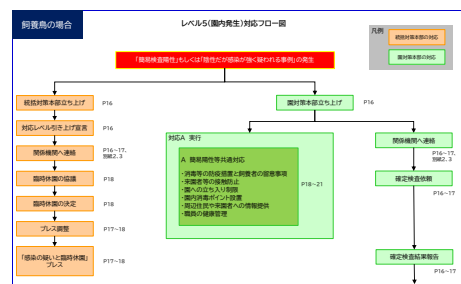


遺伝的多様性に配慮した繁殖推進
(アメリカからチーター導入)

危機管理

高病原性鳥インフルエンザから飼育鳥を守る ～対応マニュアルの全面改訂ほか対策を徹底

- 昨年度の鳥インフルエンザ陽性事例発生を教訓を活かし、多摩動物公園をはじめとする**都立動物園・水族園4園について施設改修の基本方針を決定するとともに、対応マニュアルの全面改訂を行った。**
- 予防対策を強化し、高病原性鳥インフルエンザウイルスの発生確率そのものを低減させるとともに、発生から終息までの対応内容を時系列に沿って整理したフローチャートを作成した。危機管理体制への移行手順や役割分担を予め決めておくことで、迅速かつ的確な対応をとれるようにした。

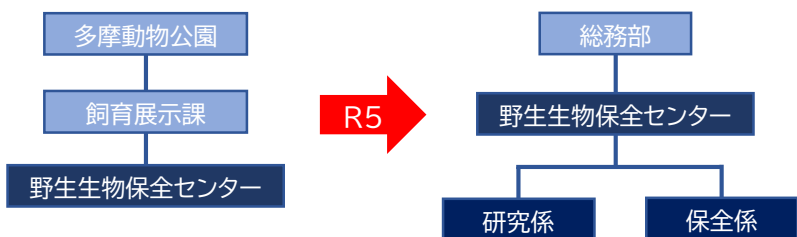


改訂マニュアルで新たに作成したフロー図(一部)

調査研究活動

野生生物保全センターの機能強化と研究成果の発表(国際ジャーナル掲載)

- 野生生物保全センターの機能をさらに強化するため課組織とし、研究活動推進に向けた予備調査として、大学等に研究活動に関するヒアリングを実施した。
- 大学等と共同で行った研究として、**絶滅危惧種であるゴールデンターキンの繁殖に関する論文が国際ジャーナルに掲載された。**



令和4年度以前(係組織)

令和5年度(課組織2係体制とし機能強化)



ゴールデンターキン

利用促進

夏季の開園延長による利用促進

サマーナイト@Tama Zoo 2023

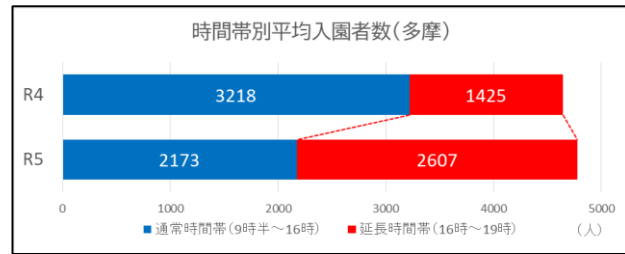
- 「夜の生態園ツアー」や「コウモリウォッチング」、「夜のキープズトーク」など、サマーナイトならではの企画を多数開催し、期間中の各イベントには親子連れを中心に合計約3,000名とたくさんの参加があった。
- 延長時間帯の入園者数(平均)は昨年度比1.8倍**と夏季に夜間開園した3園(上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園)の中で最も大きく伸び、利用促進に寄与した。



夜の生態園ツアー



コウモリウォッチング

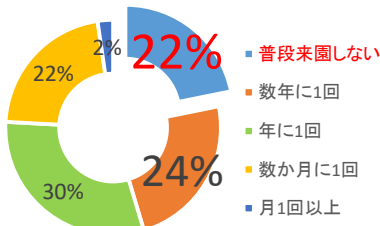


延長時間帯の来園者数(平均) 昨年度比 1.8倍！

SDGsの推進

ドリームナイト・アット・ザ・ズーを通したソーシャルインクルージョン(社会的包摂)の推進

- 障害をもつお子様とご家族の皆様に楽しいひとときをすごしていただく「ドリームナイト」を開催し、2,235名が参加した。新たな取組としてソーシャルインクルージョンの専門家によるアドバイスと評価を受け、多摩動物公園では発達障害の方向けに**プログラム案内サイン等の改良**を行った。そのほか、開園エリアを昨年より拡大し、モルモットや昆虫とのふれあい、動物の標本を活用したプログラムを実施した。
- アンケートでは「標本どうぶつえんが特にお気に入り、家に帰ってから何度もお話しています」、「マップがわかりやすく、大変助かりました」スタッフの方に笑顔で対応していただき、本当に素晴らしいなと思いました」といった感想をいただいた。



参加者の来園頻度



イベント開始時の正門



虫となかよし

地域連携・都民協働

都民や地域と連携・協働し、多摩動物公園や多摩地域を一層活性化

- 東京動物園ボランティアズ(TZV)との協働を推進**し、通常開園時の活動に加え、イベント開催時は企画にあわせたスポットガイドや観察シートの配布などを行い、園のイベントをより一層充実させることができた。
- 日野市と「環境・SDGsに関するパートナーシップ協定」を締結し連携を強化したほか、日野市や多摩地域のおすすめスポット等を発信する「日野市市制施行60周年——ありがとう60周年日野市PRフェア」を開催し、多くの来園者に多摩地域の魅力をPRした。



アフリカフェアにおけるボランティアの活動



日野市とパートナーシップ協定を締結



日野市と連携して多摩地域をPR

井の頭自然文化園

Inokashira Park Zoo 

目指す姿



いつでも気軽に楽しみ、充実したふれあい体験を通じ、野生動物を守る心を育む動物園

- ◎ メダカからツシマヤマネコまで日本産動物の保全と普及啓発の拠点
- ◎ 動物を身近に感じる教育プログラムの充実
- ◎ 美術や音楽などの文化も楽しめる魅力的な施設運営

文化園のさらなる魅力向上

非日常感を演出「ちょっとおでかけ 秋の夜長の自然文化園」

- 秋の園内の雰囲気をつくりと楽しみながら、夜ならではの飼育動物の様子を観察してもらうことをテーマとして、平成30年度から毎年10月の土日2日間に夜間開園を実施してきた。
4回目となる令和5年度は、園内や彫刻のライトアップ、限定フードメニュー、野外音楽イベントの実施等を通じ、秋の夜ならではの非日常感を演出した。
- 井の頭自然文化園のブランディングに基づく統一グラフィックの作成や、SNSを活用した戦略的な広告宣伝に取り組んだところ、昨年度より入園者数が伸び、**夜間開園2日間で17,256人(対目標値+15%)の入園があったほか、開園延長時間帯の入園率は26.2%(対目標値+6.2%)となり、いずれも目標を達成した。**
また、アンケートの結果**98%が満足(十分満足、まあ満足)**を示し、**文化園のさらなる魅力向上**を図ることができた。
- イベント認知のきっかけとなった広告等を調査したところ、「ウェブ媒体70.1%、地元広告媒体等27.8%」となり、ウェブ媒体への転換効果を裏付ける結果が得られた。
- なお、一連の広報活動は初開催となる東京都「伝わる広報大賞」において「クリエイティブ賞(静止画部門)」を受賞した。
短期的に注目度を上昇させることだけでなく、井の頭自然文化園のブランドを育てていく「継続性」や「一貫性」を重視し、成果を上げた点が評価された。

統一グラフィックの作成



ポスターグラフィック

SNSを活用した戦略的な広告宣伝



公式X(旧Twitter)



インスタグラム広告



地元広告媒体も活用

非日常感を演出した特別イベント



本園・こもれび売店前 バイオリンの野外演奏会



夜ならではの空間演出

「ちょっとおでかけ秋の夜長の自然文化園」集客力アップの広報が東京都「伝わる広報大賞」の「クリエイティブ賞(静止画部門)」を受賞！

目標／成果

- 目標① 2日間入園者数合計 15,000人以上 ⇒ **実績:17,256人 対目標値15%増達成**
- 目標② 開園延長時間帯の入園率 20%以上 ⇒ **実績:26.2% 対目標値6.2%増達成**

野生動物保全(繁殖)・動物福祉

希少種保全に向けた取組に貢献 ・ 動物福祉に配慮した飼育管理の推進

- 第2次都立動物園マスタープランに基づき策定した飼育展示計画の重点項目に沿って、**アムールヤマネコの繁殖に2年連続で成功**した。繁殖を通じて適切な飼育個体数へ調整したとともに、他園でのツシマヤマネコ繁殖子と井の頭のアムールヤマネコ親子を一時的に同居させ**ツシマヤマネコ繁殖子に社会性を習得させるプログラムに協力**し、希少種保全に向けた取組に貢献した。
- 第2次ブースト種と保全対象種について、井の頭で初の繁殖となるアマミトゲネズミなど15種で繁殖に成功した。
- 動物福祉に配慮した飼育管理のため、エンリッチメントの一環としてミゾゴイ飼育施設内にミルワームを入れた落ち葉プールを設置した。ミゾゴイが落ち葉をよけながらミルワームを探すことで採食時間が伸び、動きも活発になり動物福祉の向上に寄与した。



アムールヤマネコ

・アムールヤマネコの繁殖に2年連続で成功

・ツシマヤマネコ繁殖子に社会性を習得させる環境省のプログラムに協力



井の頭で初繁殖 アマミトゲネズミ



左 ミゾゴイ


採食
エンリッチ
メント

右 ミルワームを入れた落ち葉プール

野生動物保全(普及啓発)

日本産野生動物の保全に関する普及啓発を推進

- 日本の固有種であるアカハライモリの保全に関する特設展を開催したほか、関東エコ・ネット(事務局:国交省 関東地方整備局)と連携した特設展「おしえて！コウノトリ」や、生息地の自治体や環境保全団体など各種機関・団体と連携しツシマヤマネコの保全について紹介するイベント「ヤマネコまつり」など、**日本産動物保全の普及啓発を目的とした催しを一年を通じて開催**した。
- 親しみやすいデザインやわかりやすい展示手法を通じて、保全について楽しく学べる機会を幅広い層に提供した。それぞれの催しに対し「勉強になった」「**野生動物について考えるきっかけになった**」など、**子どもから大人まで多くの反響が寄せられた**。



【日本の固有種 アカハライモリの保全に関する特設展 いもり学にゆうもん】



【特設展 おしえて！コウノトリ】



【ヤマネコ祭 東動協ブース】

文化園のさらなる魅力向上

子どもから大人まで楽しめる！ 文化園オリジナルのユニークなスタンプラリー

- 2019年以来4年ぶり(8回目)に怪談スタンプラリー「動物園怪談画劇——井之頭百物語」を実施した。今年度は、過去のスタンプラリーに登場した**妖怪イラストの原画や、妖怪の立体像を展示する特設展を初めて開催**し、より一層企画を盛り上げた。
- 動物を観察しながら、干支の龍にまつわる園内6つのスポットをめぐるスタンプラリーを開催した。**ラリースポットごとに1色ずつ異なる色を重ねて押すユニークな手法を採用**したところ、完成したイラストの出来栄が良く、来園者からとても好評だった。

怪談スタンプラリー「動物園怪談画劇——井之頭百物語・捌(はち)」

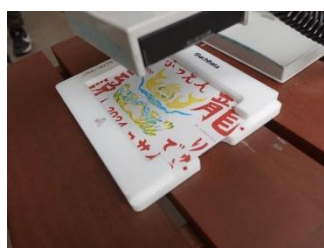
干支スタンプラリー「帰ってきた！ ぶんかえん龍伝説」



冊子配布数



5,950冊



台紙配布数



8,740部

葛西臨海水族園

Tokyo Sea Life Park 

目指す姿



「生態」から「食育」まで楽しく学べる水族館

- ◎ 東京湾から外洋、世界各地の海の生態をいきいきと再現する展示
- ◎ 海と人とのつながりを情報発信
- ◎ 海洋生物研究の拠点

環境学習

近くの「なぎさ」から遠くの「海」まで 近隣の自然やDXを活用した多彩な環境教育を展開

- 生物観察や生物採集など**実体験をと**おして**学ぶ学年別のシリーズプログラム**を、評価改善を重ねながら実施した。体系化された体験プログラムの提供を通して、多様な対象者から野生生物や自然科学についての興味関心を引き出した。
- 近隣の自然を活用するプログラムだけでなく、**DX活用の視点を積極的に取り入れ、遠隔地と水族園をつなぐ多彩な環境教育プログラムを展開**した。例えば、親子向けプログラム「おいしい魚 サケとマグロのひみつをさぐれ」では、山形県遊佐町の漁業協同組合と葛西臨海水族園をオンラインでつなぎ、小学3～6年生とその保護者9組18名を対象に遠隔地と連携したプログラムを提供した。

「西なぎさ」を活用した 学年別 フィールドプログラム



フィールドを活用する
学年別プログラム



DX活用の視点を
取り入れた
プログラム

いきものことはじめ-海でくらすカニたち

親子向けプログラム「おいしい魚 サケとマグロのひみつをさぐれ」



山形県遊佐町から遠隔中継



サケの特徴を実物で解説

教育機関との連携

学校向け教材や教員セミナーの評価検証・改善(開発)を通じた学校教育との連携強化

- 教育普及センターと協力し、**学校教員へのヒアリングに基づくプログラムの改善や教材の共同開発**等を積極的に進め、学校教育と水族園の教育普及事業との連携をより一層強化した。
- 昨年度に行った小学校教員のヒアリング結果をもとに、国語の読み物「スイミー」のパッケージ教材(動画23本・印刷シート2種)を制作し、5月に公開したところ、教員や児童より多数の利用があった。
- 教員向けセミナーについても前年度のアンケート結果や教員へのヒアリング等による**評価検証を行い、より教員のニーズに則したコースを新設**した(国語「うみのかくれんぼ」を題材にしたコース)。

「スイミー」をテーマとした授業に使える教材集の公開



スイミーを題材にしたパッケージ教材(物語に登場する海の生き物紹介など)
<https://www.tokyo-zoo.net/education/school-resources/swimmy/index.html>

「教員セミナー」ニーズに即した新たなコースを設置



教員のニーズに合わせ、
国語「うみのかくれんぼ」を題材にしたコースを新設

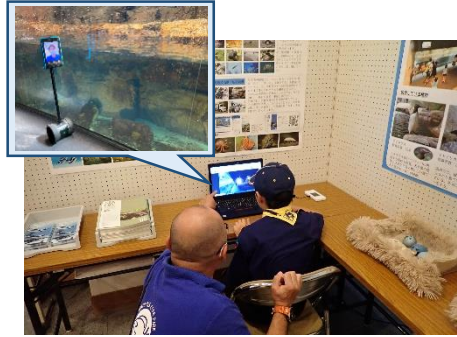
生息地との連携 × DX活用

ウミガラスの生息地・北海道羽幌町と水族園をつなぐ体験型プログラム

- パートナーシップ協定を結んでいる北海道羽幌町の「北海道海鳥センター」で開催された海鳥フェスティバルにおいて、園内プログラム「海鳥のエサの時間」をYouTube配信したほか、**アバターロボットを活用した「海鳥の生態」エリアの展示場の観察**、ウミガラスの卵の特徴を卵型容器にペイントするワークショップを実施し、各イベントに累計45名が参加した。
- フェスティバルでは、**遠く離れた展示動物の生息地と水族園をつなぐという新たな取組**を実施でき、現地でも大変好評だった。



【「海鳥のエサの時間」Live配信】



【アバターを使った海鳥の生態エリア観察会】



【海鳥の卵ペイントワークショップ】

4園が連携した利用促進

第2次都立動物園マスタープランに基づくVisit Zooキャンペーンの実施

- 都立動物園・水族園4園のPR動画を利用した**Instagramやスマホアプリ等での広告を効果的に実施**したほか、閑散期の冬季に「**都立動物園・水族園 冬の周遊キャンペーン**」を開催し、**利用促進**を図った。
- 「冬の周遊キャンペーン」のスタンプラリーイベントには約5,600人が参加し、1日あたりの参加者数は前年度同時期実施のラリーイベントと比較して**約150%となり、昨年以上の参加実績を得られた**。



戦略的な広告宣伝(スマホアプリ広告)



キャンペーン バナー



スタンプラリー参加の様子

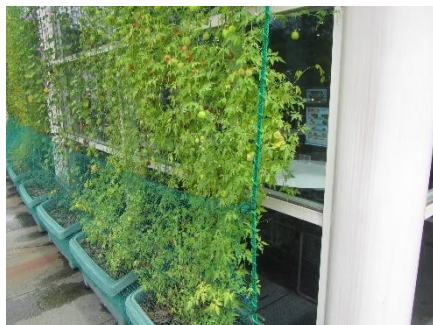


景品のサコッシュ

SDGsの推進

地球環境に配慮した施設運営の推進

- 令和4年度に策定した「地球環境保全行動戦略」に基づき、緑のカーテンをレストラン無料休憩所へ設置したほか、実生木の除去作業や剪定作業で発生した剪定枝等をチップングして園内で再利用を図るなど、**地球環境に配慮した施設運営を推進した**。
- 12月には**国内最大級の環境展示会「エコプロ」に初めて出展し、約3,000名に水族園等の環境保全に関する取組を紹介した**。



無料休憩所 緑のカーテン

エコプロ(於 東京ビッグサイト)
ブース来訪者約3千人(施設来場者約6万人)

地球環境保全行動戦略ほかの説明

収支状況

③ 収支(単位:千円)				
項目	令和5年度 金額	令和4年度 金額	令和3年度 金額	公園別支出額
収入 計	7,025,547	6,839,589	6,460,525	
内訳 指定管理料	7,024,115	6,830,872	6,422,906	上野動物園 : 2,529,381
利用料金		0		多摩動物公園 : 2,158,094
その他収入	1,432	8,717	37,619	井の頭自然文化園 : 670,255
支出 計	7,123,331	6,896,836	6,540,974	葛西臨海水族園 : 1,765,601
収支差	△97,784	△57,247	△80,449	